

## ステークホルダーの皆様へ ごあいさつ

JTは、2002年にJTグループミッション「JTブランディング宣言」とそれを実現するための行動指針「ブランディング・スピリッツ」を策定し、JTグループ全体での理念共有、企業ブランド価値の向上を目指し、グループ内への浸透及びグループ外への発信を行ってきました。2009年度より新しい中期経営計画がスタートするにあたり、新しい「JTグループミッション」とそれを実現するための行動指針「JTグループWAY」を策定しました。

新しい「JTグループミッション」は、これまでの「JTブランディング宣言」と考え方には変わりはありません。これまでの「ブランドこそがJTグループの最大の経営資源であり、お客様に信頼されるユニークな「ブランド」を生み出し、育て、高め続けていくことがJTグループの使命である」という考え方を、より分かりやすく簡潔に表現したものとご理解ください。お客様に信頼される商品・サービス・行動のすべてが「ブランド」であり、JTグループとお客様とを結ぶ深い絆を形成するものであると、グループ全体で再認識しています。

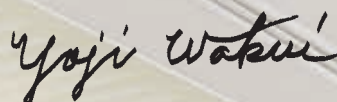


取締役会長  
涌井 洋治

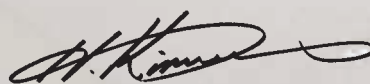
代表取締役社長  
木村 宏

私どもは、「自然・社会・人間の多様性に価値を認め、お客様に信頼される『JTならではのブランド』を生み出し、育て、高め続けていくこと」をミッションと位置付け、JTグループの一人ひとりが、お客様を第一に考え誠実に行動すること、あらゆる品質にこだわり、進化し続けること、JTグループの多様な力を結集することを通じて、キャッシュ・フローを増大させ、企業価値の増大を図り、JTグループを取り巻く様々なステークホルダーの方々の信任を得られる経営に今後とも努めていきます。

2009年6月



取締役会長  
涌井 洋治



代表取締役社長  
木村 宏





## ステークホルダーの皆様へ

2009年3月期の業績と中期経営計画「JT-11」について

010

日本たばこ産業株式会社  
アニュアルレポート2009

財務/ハイライト

JTの10年を回顧する

JT Today

ステークホルダーの皆様へ



代表取締役社長  
木村 宏

## 2009年3月期を振り返って

当連結会計年度における世界経済は、下半期に入り、世界的な金融危機が実体経済へ波及する中、米国、欧州はもとより、アジアにおいても景気の後退が深刻化しました。わが国の経済についても、企業収益の大幅な減少や雇用情勢の急速な悪化等、厳しい状況となっております。経済情勢の悪化は特に第4四半期の業績に影響を与えたものの、JTグループの2009年3月期の売上高は過去最高を更新し、EBITDAは前年に引き続き、当連結会計年度を最終年とする中期経営計画「JT2008」の全社目標である、2006年3月期比200億円増を大きく上回る、6,462億円となりました。

これは、「JT2008」に沿った施策を着実に実行し、将来に亘る持続的な成長の実現に取り組んだ成果であると認識しています。具体的には、海外たばこ事業における2007年4月のギャラハー及び食品事業における2008年1月の加ト吉グループ買収等、積極的な外部資源の獲得により事業基盤の拡大を図ることができました。

国内たばこ事業では、成人人口の減少、喫煙と健康に関する意識の高まり、喫煙をめぐる規制の強化等の構造的要因による総需要の減少に加え、taspo導入に伴い対面販路を中心とした競争が一層激化しましたが、対面販路での露出強化策や効果的な新製品の投入等により、2期連続シェア増を達成しました。

海外たばこ事業では、第4四半期の業績がルーブルやポンドの下落の影響を受けましたが、グローバル・フラッグシップ・ブランド(GFB)を中心としたトップライン成長を最優先する戦略を首尾一貫して実践したこと、ギャラハーとの統合が早期の成功をもたらしたこと等により、販売数量、売上高、EBITDAとも過去最高の水準を達成しました。

医薬事業は、取り扱い商品の見直し、薬価改定、後発医薬品の使用促進策の影響による鳥居薬品(株)の減収等がありましたが、骨粗鬆症治療薬の導出一時金収入や脂質異常症治療薬の導出先での開発の進展に伴うマイルストーン収入等により、大幅な増収となりました。

食品事業については、加工食品事業における農薬混入事件の影響、飲料事業における天候影響や競争激化、昨今の急激な景気後退による消費低迷の影響を受けましたが、加ト吉グループの連結等により増収となりました。また、食の安全管理については、最高水準の安全管理に向けた取り組みを着実に進めています。

## 2009年3月期業績について ～ 売上高、EBITDAともに過去最高を記録

### 売上高

国内たばこ事業における総需要の減少に伴う販売数量の減少、海外子会社を連結する際の邦貨換算レートのマイナス影響等があったものの、海外たばこ事業における販売数量の増加、ギャラハー及び加ト吉グループ業績の通期化寄与等により税抜売上高は前年度比2,267億円増収の2兆2,951億円（前年度比11.0%増）となりました。

### EBITDA、営業利益

国内たばこ事業における販売数量の減少や販売促進費の増加等があったものの、海外たばこ事業におけるトップライン成長の継続に加え、ギャラハー業績の通期化寄与等によりEBITDAは前年度比441億円増益の6,462億円（前年度比7.3%増）となりました。一方、営業利益は、会計基準の変更に伴う海外たばこ事業におけるのれん償却費用の計上、加ト吉グループののれん償却費用の通期化影響等により、前年度比で667億円減益の3,638億円（前年度比15.5%減）となりましたが、のれん償却費用の影響を除けば前年度比で349億円の増益となりました（前年度比8.0%増）。

### 経常利益

ギャラハー買収に伴い増加した借入金に係る支払利息の通期化影響があったものの、為替差損の減少等から、営業外損益は117億円改善しました。しかしながら、営業利益の減少を受け、経常利益は前年度比551億円減益の3,076億円（前年度比15.2%減）となりました。経常利益についても、のれん償却費用の影響を除けば前年度比で465億円の増益となりました（前年度比12.7%増）。

### 当期純利益

固定資産売却益の減少、廃止社宅等の取壊し撤去費用を含む関連損失の発生、海外たばこ事業におけるフィリピン市場での事業構造の変更に伴う費用及び加ト吉グループにおける事業体制の再編に向けた費用の計上等により、税金等調整前当期純利益は前年度比1,105億円減益の2,621億円（前年度比29.6%減）となりました。また、税金費用の算定の対象とならないのれん償却費用の影響等により、当期純利益は、前年度比1,153億円減益の1,234億円（前年度比48.3%減）となりましたが、のれん償却費用の影響を除けば、減益幅は小幅となりました。

## 配当

2009年3月期の1株当たり年間配当金は、中間配当と合わせて5,400円とさせていただきます。配当については、のれん償却影響を除いた上で、連結配当性向20%を目指し、配当水準の継続的な向上を実施してきましたが、2009年3月期には当初目指していた20%を上回りました。

## 連結業績ハイライト

(単位: 億円)

|        | 2008年3月期実績 | 2009年3月期実績    | 増減                 |
|--------|------------|---------------|--------------------|
| 税込売上高  | 64,097     | <b>68,323</b> | 4,226<br>(6.6%増)   |
| 税抜売上高* | 20,684     | <b>22,951</b> | 2,267<br>(11.0%増)  |
| EBITDA | 6,021      | <b>6,462</b>  | 441<br>(7.3%増)     |
| 営業利益   | 4,306      | <b>3,638</b>  | △667<br>(15.5%減)   |
| 経常利益   | 3,627      | <b>3,076</b>  | △551<br>(15.2%減)   |
| 当期純利益  | 2,387      | <b>1,234</b>  | △1,153<br>(48.3%減) |

\*国内たばこ事業における輸入たばこ、海外たばこ事業における物流事業を除く

【参考: のれんの償却影響を除く主要利益、配当性向、EPS】

|              |            |                   |                      |
|--------------|------------|-------------------|----------------------|
| 営業利益         | 4,344      | <b>4,693</b>      | 349<br>(8.0%増)       |
| 経常利益         | 3,666      | <b>4,131</b>      | 465<br>(12.7%増)      |
| 当期純利益        | 2,426      | <b>2,289</b>      | △137<br>(5.6%減)      |
| EPS (円)      | 25,321円86銭 | <b>23,894円55銭</b> | △1,427.31<br>(5.6%減) |
| 1株当たり配当金 (円) | 4,800      | <b>5,400</b>      | 600<br>(12.5%増)      |
| 配当性向 (%)     | 19.0%      | <b>22.6%</b>      | +3.6%pt              |

## 中期経営計画「JT-11」について

長期的に目指す企業像である「JTならではの多様な価値をお客様に提供するグローバル成長企業」の実現に向け、これまで推進してきた戦略を継承し、更に発展させるため、2011年度までの3年間についての中期経営計画「JT-11」を策定しました。

「JT2008」期間中は、ギャラハー及び、加ト吉グループを買収する等、積極的な外部資源の獲得により事業基盤を拡大し、目標を大幅に上回る利益水準を達成することができました。

「JT-11」では、この3年間を「環境変化を見据え、将来に向けた投資と不断の業務改善を通じ、力強い事業モメンタムを確たるものにしていく」期間と位置付けています。「JT-11」の全社目標は、「2009年度を基点とし、事業モメンタムで年平均5%以上のEBITDA成長」とし、この目標に向かって、国内たばこ事業、海外たばこ事業、医薬事業、食品事業において、持続的成長に向けた取り組みを進めていきます。

JTグループでは、「自然・社会・人間の多様性に価値を認め、お客様に信頼される『JTならではのブランド』を生み出し、育て、高め続けていくこと」をミッションと定め、私たち一人ひとりが、お客様を第一に考え、誠実に行動すること、あらゆる品質にこだわり、進化し続けること、JTグループの多様な力を結集することを通じて、キャッシュ・フローを増大させ、企業価値の増大を図り、JTグループを取り巻く様々なステークホルダーの方々の信任を得られる経営に今後とも努めていきます。

「JT-11」期間中における全社目標及び各事業目標については、次のとおりです。

|         |   |
|---------|---|
| 全社目標    | 2009年度を基点とし、事業モメンタムで年平均5%以上のEBITDA成長を目指す      |
| 各事業目標   |   |
| 国内たばこ事業 | 2009年度EBITDA水準の維持を目指す                         |
| 海外たばこ事業 | 2009年度を基点に、為替レート一定の前提で年平均10%以上のEBITDA成長継続を目指す |
| 医薬事業    | 後期開発品の充実とR&Dパイプラインの強化を目指す                     |
| 食品事業    | 2009年度EBITDA+100億円を目指す                        |

「JT-11」の基点となるEBITDAは、2009年4月30日に発表した以下の2009年度のEBITDAの見込みです。

|                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| 全社EBITDA                         | 4,750億円   |
| 国内たばこ事業<br>EBITDA                | 2,460億円   |
| 海外たばこ事業<br>EBITDA <sup>(注)</sup> | 2,500百万ドル |
| 食品事業EBITDA                       | 180億円     |

注：ロイヤルティ支払前ドルベースEBITDA

尚、海外たばこ事業における主要通貨のレートの前提は、対ドルで、36ルーブル、0.73ポンド、0.81ユーロです。また、邦貨換算の前提為替レートは、1ドル=95円です。

当社グループの実際の業績は、「事業等の主要なリスク」で説明されているものを含む、またそれらに限らず多くの要因により、上記の見通しとは著しく異なる可能性があります。

2009年6月